

LAN リベラメンテの導入(7) —ベルリンフィルデジタルコンサートの録音—

1. はじめに

前報(5)まではストリーミング再生の試聴、前報(6)は LAN リベラメンテを使用してダウンロードしたものの音質評価でしたが、ストリーミング再生しながら録音するとどうなるかを試してみました。

2. LAN リベラメンテの録音と試聴方法

音源としてはベルリンフィルデジタルコンサートを選び、TASCAM DA-3000 により DSD5.6MHz の録音を行いました。

演奏は次のようなものを選びました。

①マヌエル・デ・ファリャ：バレエ音楽《三角帽子》

ラケル・ロヘンディオ（ソプラノ）／ファンホ・メナ指揮ベルリンフィル

<https://www.digitalconcerthall.com/ja/concert/22411>



②セルゲイ・ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番ハ短調

キリル・ゲルシュタイン（ピアノ）／セミヨン・ビシュコフ指揮ベルリンフィル

<https://www.digitalconcerthall.com/ja/concert/22408>



録音は無線ルーターから PC で受け、micro iDSD 経由で TASCAM DA3000 に入力します。TASCAM DA3000 は DSD5.6MHz の録音設定を行い、GPS-777 から 44.1KHz のクロックを入力します。

再生は録音音源を外付け HDD に収納し、PC の HQPlayer で再生し、micro iDSD 経由で TASCAM DA3000 に入力し、SDIF 伝送により MYTEK DIGITAL 192DSD でアナログ変換してプリアンプに入力します。TASCAM DA3000 には、ABS-7777 から 44.1KHz のクロックを入力します。

なお、三角帽子は、比較のため、アンセルメ／スイスロマンズの London 盤と ESOTERIC のリマスター盤も DSD5.6MHz で録音してみました。カートリッジは ZYX R-100 EX、トランスは Byer、フォノイコは iPhono L/R 独立 2 台使用でプリアウトから TASCAM DA3000 に入力します。



3. LAN リベラメンテの録音音源の試聴結果

まず言えることは、アナログの再生も、ベルリンフィルデジタルコンサートの再生も録音すると、随分と音質が低下することです。アナログの録音は以前からそのような印象を持っていましたが、ベルリンフィルデジタルコンサートの録音や CD の録音はさほど顕著な音質低下を感じてはいませんでした。今回、ベルリンフィルデジタルコンサートはストリーミング再生のグレードが、LAN リベラメンテの効果で音質ががらりと向上したことから、録音時の音質の差が目立ってきました。

そういう意味で、ベルリンフィルデジタルコンサートからの録音にアナログからの録音を対照にした結果、ともに音質低下はあるものの、ベルリンフィルデジタルコンサートの三角帽子はアンセルメ／スイスロマンズ盤と演奏スタイルは違うもののリアルさで良い勝負をしていることが分かりました。これに対し、ESOTERIC リマスター盤のグレードが落ちることも分かります。

また、ラフマニノフのピアノ協奏曲第 2 番の録音も、スタンウェイの左手の鍵盤の沈みこみの片鱗を伺うことができます。

4. まとめ

ベルリンフィルデジタルコンサートからの **DSD** 録音は、ストリーミング再生からの音質劣化はあるものの、アナログの名録音盤からの録音とよい勝負をしていることが分かりました。

以上